

I 令和 6 年度の取組

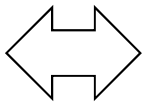
【学 習 推 進】			【安 心 安 全】		
①資質・能力を確実に身に付ける授業改善 ・資質・能力を育成する単元づくり ・見方・考え方を働かせる深い学び ・個別最適な学びと協働的な学び	②自立し生活を豊かにしていく生活科 ・「知りたい、やってみたい」を実現する活動や体験 ・他教科や上下の発達段階の学びとの滑らかな接続 ②探究的に取り組む よろこびタイム ・問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究学習の確実な実施 ・各教科で身に付けた資質・能力との関連付け	③子供主体の特別活動 ・自発的、自治的で創意工夫あふれる活動や行事の充実 ・学級、学年を超えてつながるよりよい人間関係づくり	①みんなが心地よい学校生活 ・思いやり・規範意識の涵養と自尊感情の高揚 ・多様性、包摂性を大切にする学級風土の醸成 ・ＩＣＴリテラシーの向上 ・あいさつの習慣化	②自他を大事にする健康・安全指導 ・基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯）の定着 ・命・心・体を守る知恵と術の習得 ・運動する楽しさを味わえる活動・環境の工夫	③温かで細やかな個別支援 ・児童の困り感をチームで解決する発達支援、登校支援 ・いじめ防止基本方針に基づく適切な対策・対応

【連 携・協 働】	
①地域・家庭との情報共有 ・保護者と共に考える教育相談 ・情報収集と情報活用 ・ＩＣＴ、地域回覧等によるタイムリーな情報発信	②コミュニティ・スクールの充実 ・目指す子供像、児童の実態の共有 ・地域・家庭の人的・物的教育資源の積極的な活用 ・学校支援コーディネーター、曳馬協働センターとの連携・協働

II 自己評価		※「評価」は「そう思う」「ややそう思う」の割合		※「比較」は昨年度との比較				自己評価の分析・考察	
①探究・創造	進んで「知りたい」「やってみたい」をかなえることができる	87.1	%	81.2	%	-0.7	78.1	%	-7.6
②自尊・個性伸長	自分のよさがわかり、自分を高めることができる	85.0	%	90.9	%	4.7	90.6	%	1.3
③協働・共生	友達や周りの人と力を合わせて活動することができる	87.6	%	89.6	%	1.8	93.8	%	11.7
④目標選択	目標を立て、進むべきプロセスを自ら選ぶことができる	87.1	%	78.1	%	5.7	62.5	%	-8.9
⑤学習	「勉強してよかった」「勉強はおもしろい」と思っている	79.3	%	66.5	%	-0.2	78.1	%	3.1
⑥学習	自分の考えや思いをもち、それを表そう、伝えようとしている	84.8	%	82.6	%	1.4	78.1	%	6.7
⑦学習	学んだことを生活で生かしたり、さらに深く自分で調べたりしている	78.5	%	69.6	%	-0.9	65.6	%	8.5
⑧学習	ルールやマナーを守り、タブレット型端末を学習に生かしている	93.0	%	84.5	%	2.8	75.0	%	17.9
⑨生活	学校では楽しく安心して生活している	87.6	%	93.6	%	0.5	100.0	%	17.9
⑩生活	学校の決まりや大人や友達との約束を守り、マナーよく生活している	92.4	%	92.1	%	0.7	71.9	%	4.0
⑪生活	気持ちのよいあいさつや返事、言葉づかいができています	87.8	%	77.8	%	-1.7	56.3	%	-15.1
⑫生活	早寝・早起き・食事など自分の健康に気をつけて生活している	83.5	%	79.1	%	-1.9	84.4	%	-8.4
⑬生活	自分から進んで運動や体力づくりに取り組んでいる	81.8	%	66.5	%	-2.5	78.1	%	-7.6
⑭教職員（姿勢）	先生方は子供たちのよさや頑張りを大切にしている	93.6	%	95.4	%	1.4	100.0	%	0.0
⑮教職員（姿勢）	先生方に安心して相談できる	82.4	%	90.9	%	-2.9	93.8	%	-6.2
⑯連携	学校と家庭は必要な情報が共有できている			83.2	%	1.0	100.0	%	0.0

III 今後の改善方針

◇教職員全体で「のびやかな学び」の押さえを共有して、校内研修を行っていく。
◇「よろこびタイム」「生活科」の探究活動での経験をとおして、子供たちの主体的な活動につなげていく。
◇意識のずれを分析に生かし、ギャップを埋めていけるように、さらなる指導改善につなげていく。
◇「自律」をテーマに今後も子供たちの学習面や生活面での意識が高まるように支援をしていく。
◇「あいさつ」「体力づくり」については、委員会など子供主体の特別活動を生かし、意識付けをする。
◇「いじめアンケート」や「面談」を定期的に行い、今後もいじめの早期発見、早期対応に努める。その際は、児童、保護者、教職員、さらには地域との連絡を密にして、子供たちのよりよい成長に導いていく。



IV 学校運営協議会による学校関係者評価

◇タブレット学習により表現力や伝える力が向上していることが分かった。
◇児童、保護者、教職員の評価にギャップが大きい項目がある。それを埋めていくことが大切である。
◇保護者は学校での子供の様子を知らないため、学校での様子に関する質問は答え難い面がある。意図が伝わるように、補足説明などの工夫があるとよい。
◇評価基準をより明確にすることで、正しい評価につながっていく。
◇評価の低かった挨拶については、児童会活動などを通じて改善を図っていただきたい。
◇学校は早期発見、早期対応を心掛け、丁寧にいじめに関する対応をしていると感じる。さらに、いじめを防止していくために、保護者、地域と連携を深めていけるとよい。